

# 平成23年度アマノリ養殖概況

棚田教生・中西達也

育苗は例年同様に10月下旬から開始され、11月中旬にはほとんどの浜で終了した。育苗中は平年に比べてDINは高めであったが、近年にない高水温、低塩分でノリ芽にとっては不適な環境で推移した。

図1に平成23、22年度の月別徳島県漁連共販枚数の推移を、図2に年度別共販枚数と平均単価の推移を示した。

本養殖も例年同様に11月下旬から開始されたが、DINは高いものの芽伸びが悪い状態が続き、12月中旬に予定されていた第1回入札が中止になるなど年内は著しい不作となった。12月下旬になってようやく芽が伸び始めたが、紀伊水道で小型珪藻が大量発生したためDINが著しく低下

し、県南漁場を中心に色落ちが発生した。さらに1月中旬以降は珪藻ユーカンピアが広範囲で大量発生したため、全漁場でDINは大きく低下した。2月中旬以降、吉野川河口域の漁場を中心にDINの回復が見られ、色調および生産も回復した。3月以降は県南漁場を含めてDINが回復し、まとまった生産となった。

共販枚数は、漁期の後半に回復がみられたものの、前半の著しい不作が響き、全体では昨年度比76%の低水準となった。一方、平均単価は全国的な不作および下物高相場を反映して近年を上回る水準となり、生産金額は昨年度比91%であった。

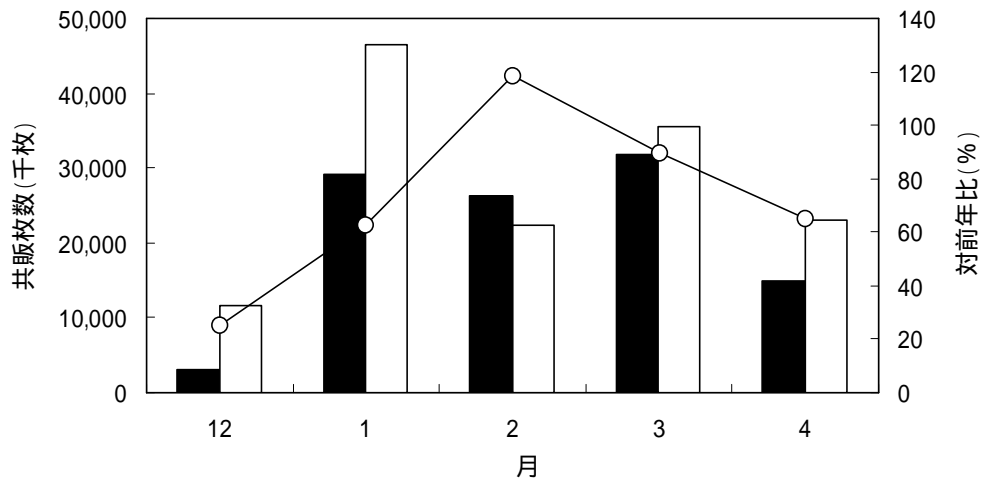


図1. 月別共販枚数の推移。 ，平成23年度； ，平成22年度； ，対前年比

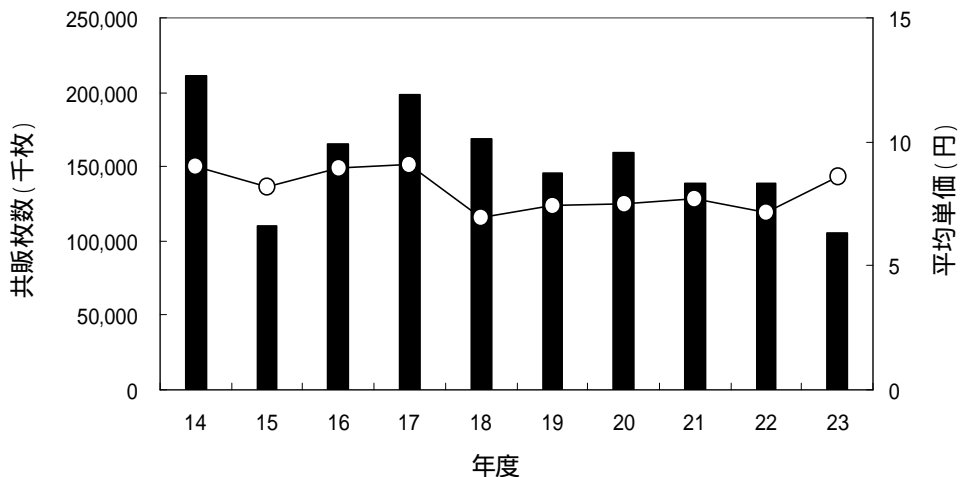


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移。 ，共販枚数； ，平均単価